

第 25 回松江市行財政改革推進委員会 会議録

- 1 日 時 平成 28 年 11 月 2 日（水）午前 10 時から 11 時 35 分まで
- 2 場 所 松江市役所 第二常任委員会室
- 3 出席者 (1) 委員 11 人（欠席 1 人）
山本会長、加藤副会長、大塚委員、後藤委員、塩谷委員、高尾委員
竹内委員、竹田委員、錦織委員、吉村委員、渡部委員
(2) 松江市行財政改革推進本部 54 人
本部長（市長）、総括副本部長 1 人、副本部長 9 人（内、代理 1 人）、
本部員 15 人（内、代理 3 人）、幹事 23 人（内、代理 1 人）、事務局他 5 人
- 4 次 第
- | |
|--|
| 1 開会 |
| 2 市長あいさつ |
| 3 委員の紹介及び会長の選出 |
| 4 議題
(1) 行財政改革実施計画の平成 27 年度実施報告について |
| 5 その他 |
| 6 閉会 |
- 5 会議経過 別記のとおり
- 6 事務局 松江市 総務部 行政改革推進課 電話 0852-55-5193

1 開会

事務局

ただいまから、第 25 回松江市行財政改革推進委員会を開催いたします。

2 市長あいさつ

この度、集まれた皆様には松江市行財政改革推進委員会の委員を快くお受けいただきありがとうございます。

そして、また、今回、「第 25 回松江市行財政改革推進委員会」開催いたしましたところ、皆様大変お忙しい中ご出席賜りまして誠にありがとうございます。

皆様方には今後 2 年間、行財政改革の取り組みにつきまして、いろいろな形でのご指導ご鞭撻をお願い申し上げたいと思っております。

これまで、松江市は合併後、積極的に行財政改革に取り組んでまいりました。

平成 17 年には 1 市 7 町村、平成 23 年には 1 市 1 町が合併したわけですので、それぞれ財政状況ややっている事が違います。そのような中で、それを一つにして事業をしていこうとすると、かなり大幅な行財政改革が必要でありました。

合併後 10 年間をかけて 400 人削減といった大ナタを振るってきたわけでございます。いわば「量」的な行財政改革を行ってきたところです。

お蔭さまで、それによりまして、一定の成果を出すことができたと思っております。

しかしながら、現在はいろいろな形で人口減少や少子高齢化といった問題があり、こうしたことに対して積極的に取り組んでいかなくてははいけません。

特に、いわゆる社会保障関係の経費が必然的に上がってくる。このような状況であるので、引き続き行財政改革を進めていかなくてははいけないと思っております。

毎年の職員定員の見直しも引き続きやっていかなくてはなりません、なかなか、以前のような 400 人削減といったようなことがだんだんと難しくなっているのは事実でございます。

今、私どもがやろうとしているのは公共施設の適正化であります。

今後、今ある公共施設をそのまま存続をさせるということになると、維持管理費等々が出てまいりますので、これを賄う財源としてほしい 80 億近くかかるわけですが、毎年 30 億から 40 億程度しか生み出せないといった状況がありまして、その差をどう生み出していくのかということがあります。そういったものをできるだけ公共施設適正化によって生み出していくということでございます。

一方、「質」的な行政の進め方をやることによって、行財政改革も進めていかなくてははいけません。今、地方創生の総合戦略の中でも P D C A サイクルで回していく、あるいは、目標を決めてそれに向けてやるということ、行政全般にわたってやっていかなくてははいけないと思っております。

また、市役所には人・モノに関してのいろいろなデータがありますが、これが必ずしも有効に活用されていない状況もございます。

もちろん、個人情報にはきちんと配慮しないといけません、いわゆる統計データをいかに活用していくかは、今後の行政運営をしていくうえで大変、大事な視点となると思っています。

そういう意味で、私どももいろいろと工夫をしながら行政運営、行財政改革といったものを行っていきたいと考えています。

本日は、皆様方に、これまでの平成 27 年度の実施状況をご報告させていただき、ご意見を賜って、これからの行財政改革の推進に活かしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

3 委員の紹介及び会長の選出

事務局

(就任された 12 名の委員を紹介し、大西委員の欠席を報告する。)

(会長及び副会長の選出について、本委員会設置要綱において「会長及び副会長は、委員の互選とする」と規定されており、委員の方から推薦をされる方があれば発言を求める。)

渡部委員

引き続き、会長には山本委員様、副会長には加藤委員様にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

事務局

会長に山本委員、副会長に加藤委員とのご推薦がございました。ほかにごございますでしょうか。

それでは、会長には山本委員にお願いしたいと思いますが、皆様、いかがでしょうか。

～承認（拍手多数）～

ありがとうございます。

それでは、続きまして副会長には加藤委員にお願いしたいと思いますが、皆様、いかがでしょうか。

～承認（拍手多数）～

ありがとうございます。

それでは、山本会長と加藤副会長には、前の席にご移動をお願いいたします。

議長につきましては、本委員会の設置要綱の規定により、会長が務めることになっております。山本会長、よろしくお願いいたします。

議長（山本会長）

ただいま、会長に選出されました山本でございます。どうぞ、よろしくお願ひいたしません。

早速ですが、これより議事に入ります。

議長（山本会長）

（松江市情報公開条例及び審議会等の会議の公開に関する要綱の規定により、会議の公開を決定）

4 議題（1）行財政改革実施計画の平成 27 年度実施報告について

議長（山本会長）

それでは、議題(1)行財政改革実施計画の平成 27 年度実施報告について、事務局から説明をお願いします。

事務局（行政改革推進課長）

（資料「平成 27 年度松江市行財政改革の実施状況」の概要及び「平成 27 年度実施報告書」により説明）

議長（山本会長）

ありがとうございました。ただ今の事務局から説明に対しまして、委員の皆様からご意見・ご質問などをお受けしたいと思います。いかがでしょうか。

高尾委員

1 点お伺ひしたいのは、特に行政の事務を実施する上での組織の話です。

人員の削減の話、この間の職員の意識の話、組織のマネジメントの話などがでておりましたが、実施体制としての機構、ここ何年間にどういう形で機構を変えて、実際の業務の効率化にあたられたのかという点でその基本的な考え方をお聞かせいただきたい。

いろいろな形で、重点施策がなされたと思うが、それに伴う市行政の全体の機構をどのように変化させておられたのか。といいますのも、一般的に行政だけでなく、企業の場合も何か方向転換する場合には、必ず機構の中で企業の意思や方向性が表れるわけで、それを市民に対してどのような形で説明をされてきたのかを伺ひたいと思います。

それと、もう 1 点、ふるさと寄附の関係でございます。

資料の 18 頁に効果額を記載しておられるが、これは市財政の範囲での効果額としてだしておられると思いますが、ふるさと寄附は地元に対して波及効果があるものと思っています。例えば、市の財政ではこれだけの増減があったけど、地元に対してはどれぐらいの効果があったということも伺ひたいので、もし、そのような資料をお持ちであれば教えていただきたいと思っています。

議長（山本会長）

それでは、2点について事務局からお願いします。

事務局（行政改革推進課長）

平成17年の合併以降、組織機構については、そのスリム化というものも目指しながら取り組んでまいりましたが、当市独自の取り組みを進める上で、どのような組織を作って対応していったほうが良いかということ、その時々に応じて部や課の新設等々を行っているところです。当市は松江城をはじめ、貴重な歴史遺産もございます。こういったものも活かしながら新しいまちづくりを考えていくということで、平成26年度に歴史まちづくり部を新設し、体制もつくってきております。

また、商工関係では、松江市における特産品の開発振興ということで、本年度から特産振興室を設置し、新たなものの開発に取り組める組織づくりを行っております。その時々、情勢、状況に応じてベストと思われる組織体制づくりに努めている状況でございます。

ふるさと寄附につきましては、地域の波及効果額ということですが、すみませんが今は持ち合わせておりません。そういったものの効果というものも当然考えていくべきだろうと思いますので、今後、努めてまいりたいと思います。

市長

先程の話ですが、いろいろな事業をどう効率的に推進していくかという観点から常に組織の見直しなどしておりますが、この10年間で一番大きな問題として、合併というものがあつたわけでございます。やはり、融合一体化ということをやつていかないと、一つの市としてのまとまりができないということで、合併した旧町村に支所をおきました。本庁との連携なり、地元との関わりといったものを丁寧にやつていこうということで設置したものでございます。

だんだんとそれを少し整理していく必要があるという考え方に至つて、公民館と支所というものをできるだけ、一つの建物で複合的にやつていこうという取り組みを今進めております。

それが、松江市全体の組織ということでは一番大きなことでございます。

個々としては、例えば以前は水道局でしたが、効率性を考えて関連のある下水道の仕事を統合し、現在は、上下水道局としております。また、来年度からは上下水道局と簡易水道の統合に向けて進めております。

あとは、個々のいろいろな世の中の流れの中で考えておりますが、一つは観光部門でございます。合併をした段階で、それまでは経済部があり、その中に観光部門をおいていましたが、観光に力を入れていく必要があるということから観光部を設けました。その後、やはり観光も一つの産業の一環であるとの考えの中で、産業観光部を設けて、その中に産業部門、観光部門を入れ込んだところでございます。

それから、先程の歴史まちづくり部ですが、それまでは都市計画部でございました。山

口県萩市に行きまして、萩市は20年来、歴史まちづくり部をつくっていて、これは市としてのまちづくりの原石を名前で対外的にアピールしていこうという効果があるということでした。これは是非やらなければならないという考えに至り、歴史まちづくり部を設けたところでございます。やはり、松江市は歴史を活かしたまちづくりが大事だと。都市計画というと全国一律のイメージがありますので、都市計画の中でも松江の歴史を活かしたまちづくりやっていくというメッセージをそれに込めているということでございます。

議長（山本会長）

ありがとうございました。

よろしいでしょうか。そのほかに何かございますでしょうか。

竹田委員、どうぞ。

竹田委員

私は、行財政改革と共創のまちづくりを是非、がっちりと一体的に進めていただきたいということをお願いしたいと思います。

松江NPOネットワークから提案させていただいた「共創・協働マーケット」の開催については、3年間やっていったところです。

また、「市民と合同の協働研修」というものも継続していただいておりますが、その中で講師が松江市の人口構成のことや経済状態のことなどを話され、市職員は松江市の危機的な状況を当然に分かっているとは思いますが、そのことを市民とも共有していかなければならないと講師も言われましたし、参加された多くの市職員の方々も、松江市の現状を市民に知ってもらい、この危機意識を市民と共有しなければならないとおっしゃっていました。

危機感だけでなく、明るい未来も共有したいのですが、現状として松江市の財政が大変な状態であることを市民が理解することによって、公共施設の適正化とかいろいろなことが納得して進めていけると思います。

ですので、市民と一緒に行財政改革を進めていくのだということを是非お願いしたいと思います。そのためには、住民を共創のまちづくりの担い手として育成するという観点で住民や市民団体を担い手としてどんどん育てていっていただきたいと思います。

具体的なこととなりますが、子育て支援センターのサテライト施設の開所日を削減するというお話がありました。利用者数が少ないから5日を3日にするというのは、公共施設としてはありとは思いますが、これは、ニーズが全くないといくことではないですね。

少数ではあっても、居場所を必要とする子育て家庭はあるはずだと思います。と思うと公共施設は削減するけれども小規模な家庭的なコミュニティはいらないわけではない。そういうものを市民がそれぞれの地で小さく担っていけるまちづくりが必要で、そういう考え方が子育て支援だけでなく、いろいろな場面で必要なのではないかと考えています。

行政の方でも、もちろん制度をたくさん用意して下さって「子育て環境日本一」を目指しておられますが、制度や情報が充実していれば人間は居心地が良いものではありません。

やはり、コミュニティ、人とのつながりを大切にした市民活動を応援していただきたい

いと思います。

それから、平成28年度のことになってしまうのですが、これも提案させていただいて「共創・協働ガイドブック」をいうものを作成させていただいております。今年度の3月に2017年度版を発行したいということで現在進めているところですが、是非、こういうものを活用いただいて、行財政改革も共創でということで進めていただければと思います。よろしく願いいたします。

議長（山本会長）

ありがとうございました。

何か、市の方からご発言はありますでしょうか。

事務局（行政改革推進課長）

貴重なご意見として賜りたいと思います。

ありがとうございます。

市長

大変、今、竹田委員から良いお話をいただきました。私ども、何年か前から共創のまちづくりというものを進めておりますけれども、最近、いろいろと考えるところがあって、やっぱり、人口減少ということが言われていて、なかなか若者が定着しない、あるいは帰ってこないという状況があるわけです。それに対して、我々は我々で、例えば企業誘致などをやったりしているわけですが、それがどうもミスマッチのようなどころがあると思っています。それで、やはり若者を振り向かせる、あるいは定着してもらうためには、今、まちづくりをしている我々がこのまちをこうしたいといった夢が語れないと、そこへ定着しようとする若者も、振り向いてくれないと思うんですよね。そのためには、行政が語るよりも、実際、そこでいろいろな活動をしておられる皆様方の思いを熱をもって語ってもらう。

“思い”というものが一番大事で、具体的な何か仕組みだとかを事細かく言うよりも、自分はこのことをやっていきたいという思いを、いろいろな分野で語ってもらうことが、大変大事で、それが正に共創だろうと思っております。そのためには、もちろんお金も必要ですし、そういった事に対して行政と一緒にあって、私どもとしては思いが強いものには積極的に支援をしていかなくてはいけないということになると思います。そういう意味でこれからも共創のまちづくりを是非進めてまいりたいので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

議長（山本会長）

ありがとうございます。そのほか、何かありますでしょうか。

吉村委員、どうぞ。

吉村委員

私は、松江市商工会議所 女性会の委員でございまして、やはり商売屋という観点からの意見でございますが、資料の中で、観光の振興というところがございます。やはり、その部分が一番気になるところでございます。その中でも特に、多分、いろいろなところでお話しが出てくるかと思いますが、松江城の周辺をはじめ、いろいろなところに観光のお客様がおいでになられますけれども、駐車場が圧倒的に足りておりません。以前は、松江城の周りのところにバスが止められたところが、止められなくなったりですとか、あるいは休日にふと見ると、お城に入られる車の行列がすごかったりですとか。市の方にお聞きすると、「おもてなし駐車場というのがあります。」と言われ、「それはここにあります。」と資料として作られています。見せていただきました。でも、これはどこで誰が配っているのでしょうか。観光のお客様が実際に知られることはまず無いように思います。観光バスの運転手の方々にも、「松江市はそういった設備面がまだまだ不十分じゃないかな。」とよく言われます。

これは、行財政のことではなく、観光課の仕事で、観光課の方に申し上げるべきことかもしれないかもしれませんが、これは観光課の話、これは行財政の話と縦割りするのでなく、このような話がこの会議の場が出た、じゃあ、観光課と組んで、どういうふうにしたらいいかという取り組みをしていただけたら、うれしく思います。

インバウンド（訪日外国人旅行）も確かに推進されてまいりまして、東京や京都並みとは言いませんが、中国の方、台湾の方、そのほかの海外の方がたくさんお越しになりました。この方たちが、何をどういうふう求めておられるのか、また、日本人の観光のお客様が何を求めておられるのか、そういったところの声を少しずつ拾い上げていただきたいと思います。

私も、松江城の近くで営んでおりますが、確かに駐車場も少ないのが現状です。近くには、民間の駐車場で60台位入るようなところもございますが、土日はチェーンが掛けてあります。例えば、そういうところをお願いをしてみても、松江市からの補助でシルバーさんを置くなどできれば、すごく良い駐車場になるのではないかなと思います。それが、できるかできないかは、また、違うかもしれませんが、そのような大きな駐車場が休日に空いているという事実を確認していただいて、折衝していただくことも一つの手ではないのかなと一市民として思っています。ご検討いただけたら、うれしく思います。以上です。

議長（山本会長）

ありがとうございます。

何かございますでしょうか。

市長

今の吉村委員のお話は、大変貴重なお話でございまして、ありがとうございます。

これは、もしもやろうとすると、いろいろな市民の支えがないとなかなかやっていけないという面がございます。観光課に任せておけばやるだろうということではなくて、是非、

先程の駐車場のようなお話をいろいろな形でいただいて、皆さんと一緒にやっていきたいと思えます。もちろん、いやだという人もいるでしょうし、そのような方々とも接触して、説得していかなくてはいけないと思えます。先程の共創の話ではないですが、我々の思いと一緒にぶつけていくことが必要だと思えます。全市が一緒になって進めていくようなやり方をやっていきたいと思っているので、どうかこれからもよろしくお願ひしたいと思えます。

議長（山本会長）

観光事業、あるいは歴史まちづくりの面で何かお考えがありましたら、可能な範囲でお願いいたします。

観光事業部長

日頃から、商工会議所さんにはお世話になっておまして、ありがとうございます。

インバウンドのお話もございましたので、最近の状況などについてお話をさせていただきます。

官民挙げて取り組んだ成果が、ここにきて出ておまして、この2、3年で2倍近くの増加といった状況となっております。特に多いのが台湾、それから最近では米子香港チャーター便の就航により香港が非常に伸びてきております。

それから、ヨーロッパの方ではフランスを一つのターゲットとして進めておまして、欧米の方も着実に増え始めております。

商工会議所さんとも、そういった方々の受け入れについて、是非、お越しいただいた多くの方に気持ち良く市内をまわっていただいて、さらにいろいろなお店で消費していただくような取り組みを進めていきたいと考えております。是非、その点についても、共創という手法と一緒にいろいろと取り組ませていただければ思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

市長

駐車場の問題は、議会などでも、例えば、松江歴史館をつくった時には、駐車場がないからつくったほうが良いのではとの意見が出るわけですが、実際にはそのような土地が周辺になくて返答に困ってしまうわけです。先程、吉村委員がおっしゃったような具体的なお話を出してもらおうと、すごく我々としてはありがたい話なんです。それと同時に松江を上空で見ますと、多分、駐車場だらけで、駐車場の中に建物があるような感じもするわけです。ですから、本当は、どこかに駐車場を立体的にまとめるとか、もう少し有効に土地利用をするとか、そのような考え方も松江のような街の場合には良いのかなと思ったりするわけです。しかし、これは、それぞれの皆さん方の所有権の問題もありますので、それを実現していく場合にはどうしたら良いのかをこれから考えていかなくてはいけないわけです。やっぱり、そのような声を皆さん方と一緒に出していくことが、一番大事なような気がしています。もちろん、土地を持っている人を責め立てるわけではなくて、一緒にな

って考えていく仕方をこれからやっていけたら良いなと思っています。ちょっと抽象的な話になりましたが、いろいろな方面からそのような問題について、皆さん方から声を上げていただくと、大変、ありがたいと思っています。困ったというだけでなく、こうした方が良いのではないかとといったことがあれば、声を上げていただき、一緒になって何か進めていければと思います。

議長（山本会長）

ありがとうございました。以前から、この駐車場の話は出てくる気がしていますが、パーク&ライドという形で北公園近くにもあるわけですが、私も帰松する際に見かけると空いている状況が見受けられるので、このあたりの利用が徹底できれば良いような感じを受けています。

今、市長から話もあったように共創的に、空いている既存の駐車場の活用方法も含めて、システムとしての駐車場の確保といったところを考えていただければと良いかと思っています。ありがとうございました。

それでは、竹内委員さんどうぞ。

竹内委員

日本政策投資銀行の竹内でございます。よろしくお願ひいたします。

私自身は、今年の3月までは公共施設適正化計画策定委員会の委員をさせていただきまして、最終的に3月に適正化計画が策定となりました。

今年度からはその実行・進捗を確認・モニタリングしていく段階になったということで、今回、こちらの委員会に入らせていただいたと理解しております。

今年3月策定された計画では、第1期計画として76施設について、今後の方向性が示されています。これは、実施報告書にも記載されているとおりでございます。計画が策定されてから、8か月程が経過しておりますけれども、その後、それぞれ、どの施設がどのような状況になっているのか、計画どおり検討が進んでいるのか、進んでいないものがあるのか、方針変更となったものがあるのかどうか、といったところに非常に興味をもっているところでございます。

また、計画を策定した時点では、計画そのものを随時、ローリングをかけて見直しをすることになっておりまして、私自身も委員として、そのローリング見直しの重要性について指摘させていただいたところでございます。

計画の一部修正や対象施設の新規の追加など、その後の計画の見直しの状況について現状がどのようにになっているのか教えていただければと思います。

今回は、平成27年度に関してということですので、この場ですぐご回答いただきたいというわけではございませんが、次回の委員会、あるいは別の機会でも結構ですが教えていただければと思います。

このテーマでは、ともしますと、計画は策定したが総論賛成、各論反対ということになって、結局、実施段階でうやむやになってしまいがちなテーマだと理解しております。定

期的にしっかりと進捗について見させていただきたいという趣旨でございます。

もう1点は、ガス事業民営化についてでございます。来年4月に始まるガス自由化を控え、国内でも様々な動きがございます。異業種からの参入の動きですとか、ガス会社同士の合従連衡の動き等でございます。また、近年、国内でもインフラ分野を含めて、官民分担、PPP、PFIといった様々な取組事例がここ数年でも増えておりまして、官か民か、ゼロかイチかという二者択一ではなくて官民連携の様々なバリエーションが考えられます。当行でも国内外での取組事例の蓄積がございますので、このあたり松江市様の方で、民間活用等、今後一層踏み込んで本格的に検討されるということがございましたら、当行といたしましてもお手伝い、ご協力させていただきたいと思っております。以上でございます。

議長（山本会長）

ありがとうございます。

今の竹内委員のご意見についてはいかがでしょうか。

はい、どうぞ。

財政部長

ただいま、竹内委員の方から、公共施設適正化計画についてのご質問がございました。計画策定の際には、大変お世話になりました。

おっしゃるように計画は全国でも策定しておりますが、これが計画倒れになってはいけないというご指摘でございます。そこで、松江市の方では、具体的に関係者の皆さんと調整を進めておりまして、計画を策定して半年となりますけれども76施設のうち、12施設は公共施設の適正化をお受けいただいたものでございます。そして、30施設について、だいたい適正化の方針に沿った方向性で協議をさせていただいております。第1期計画期間が5年で、まだ、半年の状態でございますので、残りの34施設については今後引き続き協議を進めさせていただきたいと思っております。

それから、実際には800もの公共施設がございます。第1期計画で76施設を示しておりますけれども、まだまだ、たくさんございます。今度12月には、ローリングをかけまして、更に第2期計画以降としているものの中でも、前倒しできるものがないかということも検討してまいりたいと思っております。引き続き、市民の方のご理解をいただきながら、取り組めるもの、進められるものは積極的に進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

議長（山本会長）

続いて、ガス局長お願いします。

ガス局長

ガス事業民営化問題については、「松江市行財政改革実施計画」にも掲げておりますけれ

ども、民営化に向かって検討を進めている状況でございます。

そのような中で、昨年は電気事業の自由化でしたが、いよいよ来年の4月からガス事業も自由化になるということで、エネルギー業界は、電気もガスも垣根なくエネルギー一つということで業界は進んでいくこととなります。

そういう中で松江市のガス局とでございますけれども、松江市の場合は、東京ガスや大阪ガスと違って導管ではつながっておりませんで、サテライトでやっております。これからの見通しは分かりませんが、大きな変化は現れないと予測しております。

ちなみに、ガス事業者は207社ございますが、その中で公営ガス事業者は27社ございましたが、昨年1社譲渡され、26社となっております。そういった中で、松江市としての事業価値というものを、政策投資銀行の方で一度ご検討いただき、評価をいたしております。この事業価値を維持していくということになりますと、経営状況を良くしていくことが基本でございます。今、そのような中で努力をいたして、民営化の方向に向かっての検討を進めているところでございます。

それと、先程、もう1点ございましたが、官民の連携ということでございますけれども、我々といたしましては、これからは電気、ガスとのセットなどアライアンス（企業同士の提携）がいろいろなところで進んでおりますので、こういったことを踏まえながら、今やっております。

最後になりますが、日本政策投資銀行さんは、いろいろなところでM&Aのご助言・ご指導をされていると承知しております。具体論につきましては、今後いろいろとご指導いただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

議長（山本会長）

ありがとうございます。

よろしいでしょうか。

では、渡部委員どうぞ。

渡部委員

先程から公共施設適正化ということで、市長も冒頭の挨拶の中でもおっしゃっておられました。私は、これからは非常に大事なことだと思っております。それで、ただ廃止するだけではなく、やっぱり再利用ということもいろいろと考えてみたらどうかと思っております。特に、民間と一緒にその辺を考えていけば、いろいろなアイデアが出てくるのではないかと思います。例えば、観光客がどんどん来られておられますが、宿泊する場所が足りないとか、あるいはそのようなところで体験などもしていただいて、観光客を増やしていくとか。それから、今、社会的な課題として困窮児童とか言われておりますが、そのような児童への学習支援とか、都会の方では子ども食堂というものも開かれているのですが、そういったものを開こうとしても施設がないわけです。施設を提供するのは市で、活用するのは民間あるいは住民の皆さんたちが積極的にやっていただけたらという形で、是非、民間と一緒に公共施設の適正化を考えていただけたらと思

ております。

それから、もう1点ですけど、資料の10ページにある「地域における要援護者支援体制の構築」はB評価になっているのですが、これも住民の皆さんが主体的にやっていかないと出来ないことです。もっと住民の意見を聞いて、そして、住民の自助・共助の精神を取り入れながら、是非、住民の皆さんと一緒に検討して進めていただけたらと思っております。特に、平成29年度に少し改正されるように聞いておりますので、その時点では積極的に住民の皆さんの意見を取り入れてやっていただけたら、もう少し、取り組みを進めていけるのではと思います。

議長（山本会長）

ありがとうございました。

特に、意見などはございますか。

では、財政部からお願いします。

財政部長

公共施設適正化のご意見をいただき、ありがとうございました。先程も申しましたように、これから、まだまだ適正化は引き続き進めてまいらないといけないと思っております。その中では、当然、今、ご指摘がありましたような民間譲渡、民間での活用をしていただくようなことも進めていきたいと思っております。地域の皆さん方とも、よくよく話しながら、どういう活用の仕方が良いのか、民間譲渡が良いのか、それから、建物が古くてどうしても使えないものは廃止するということもありますけれども、様々な観点から検討を進めてまいりたいと思っておりますので、どうぞ、よろしく願いいたします。

議長（山本会長）

ありがとうございました。

ほかにございますか。

健康福祉部どうぞ。

健康福祉部長

要援護者支援事業につきましては、渡部委員のおっしゃいますように、各地域の皆様方に、大変、ご支援賜りましてありがとうございます。この資料では136組織ということでございますが、今は148組織まで広がっております。しかし、全市展開ということを考えておりますので、引き続き公民館の皆様をはじめ、各地域の皆様のご意見を賜りながら進めてまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

議長（山本会長）

ありがとうございました。

あと少し時間がございますが、ほかにございますか。

大塚委員、どうぞ。

大塚委員

私は行政書士と社会保険労務士をしております。仕事柄、週に何回か窓口に行くこともありますし、この目次を拝見すると「職員の力を最大限引き出す仕組みづくり」というところに着目しています。ひとつは ICT の活用についてですが、窓口サービスがだいぶ改善されているということですが、来場者がいずれペーパーレスになる日があるのかお聞きしたいと思います。

市民部長

ペーパーレスになるかという点、すぐにはおそろくならないと思います。しかしながら今、マイナンバーカードの普及に努めており、直近の状況では約 1 万 800 件交付したところ。人口 20 万に対して、約 5%です。来年 1 月 4 日から、松江市内の 77 か所の各コンビニエンスストアで住民票の発行と戸籍の発行ができるようになりますので、そういうところで利便性の向上を図りたいと、準備を進めているところです。全て完璧にできるかどうかはデータ連携の問題等あるかと思いますが、現在、情報政策課とも連携をとりながら、国の機構とも協議しながらやっているところですので、その点をご理解いただければと思います。

議長（山本会長）

ありがとうございました。そのほかにございますでしょうか。

それでは、錦織委員。

錦織委員

連合から出ている錦織です。

報告書 22 頁に「職員の力を最大限引き出す仕組みづくりと意識改革」について触れてあるわけですが、まず一つは、組織としての行政改革推進についても評価項目が上がっていますが、松江市の行政としても他の市町村に比べて男女共同参画の推進に向けた取り組みは非常に高いと、我々も評価しているところです。そうした中で、先ほどの地域の人との協働によるまちづくりにも若干関わってきますが、松江市は企業でいえば市内で 1、2 番の大企業であり何千人もの職員がいるわけですが、これから求められるものとして、私ども労働組合としても考えていかなくてはいけないのは、少子高齢化・人口減でいかに地域で豊かな暮らしをするかという中で、それぞれの働き方のワークライフバランスの中に、仕事ばかりではなく地域の中でそれぞれ働く者の関わり方というものを非常に重要視しています。職員育成・意識改革の中で、市職員の業務の中での男女共同参画も含めた意識改革もですが、地域の一住民としても積極的な関わり方というものを意識した人材育成をお願いさせていただきたいということ、発言させていただきます。

総務部長

非常に貴重なご意見をありがとうございました。

私ども職員には、日頃からまず市民と顔を突き合わせていろいろな話をする中で、行政に対するニーズあるいは信頼を得られるということを、指導・研修しています。

一方で、仕事の評価をする業務実績評定というシステムの中で、地域活動・ボランティア活動やワークライフバランスの取り組みを評価する仕組みを作っているところです。共創という観点からも非常に重要なことですし、そこに出かけることによって様々なご意見やアイデアをいただけますし、なにより一市民としてその地域を活性化していくためにも重要だと考えていますので、これからも精一杯取り組んでいきたいと思えます。

議長（山本会長）

ありがとうございます。

塩谷委員、どうぞ。

塩谷委員

私も22ページの「職員の人材育成」についてお聞きします。この中で、人事配置や女性職員の活躍促進などいろいろな取り組みがなされていますが、現段階ではB評価ということですが、その中で逆にA評価として「だんだんカイゼン活動」というものがあげられており、今後は「アンケート結果を踏まえ検討のうえ全庁実施を目指す」と書かれていますが、この活動の具体的な内容についてもう少し教えていただければと思います。

事務局（行政改革推進課長）

「だんだんカイゼン活動」はどういったものかといいますと、常日頃職員が行っている業務の中で、少しでも改善に役立ちそうなものを全庁の職員に周知し、全体としてそのような改善の意識付けができないかということ、平成27年度に試行実施したところです。試行実施についてのアンケート結果もありますので、これをみて全庁的に反映できるような取り組みを今後考えていきたいと思えます。

議長（山本会長）

ありがとうございました。

ひとつお各委員からご意見をいただきましたが、そのほかに何かありますか。

どうぞ、大塚委員。

大塚委員

5ページの「補助金の見直し」についてですが、これは企業に対する補助金も含まれますか。

事務局（行政改革推進課長）

補助金の対象は、企業、住民の皆様、関係団体など諸々ありますが、それらも含めてで

す。

大塚委員

わかりました。ここに「効果の上がらないもの」等とありますが、実は周知があまりなされていなかったのではないかと思います。終わった補助金等がそのままホームページ上に掲載されていて、例えば、新規の補助金があると期待して連絡してみると「もう終わっています。」と。我々でも知らない補助金がたくさんありますが、実は知られていないから効果が上がらなかったということもあると思います。脱線するかもしれませんが、私たちもお客様と、労働人口の減少を日々目の当たりにしていて、人が集まらないなど問題となっています。何とか労働人口が増えるような施策が無いのかなと、常に思っています。例えば、U・Iターンをした会社に補助金を支給するなど、とにかく人口を増やすような補助金・助成金をつくり、かつ、事業主にそれが徹底周知されて活かされるような補助金であれば、このように効果が上がらないという数字も下がるのではないかと思います。本当に企業側の立場に立って補助金をつくってほしいと考えていますので、よろしく願います。

市長

私どもも全く同感です。企業への補助金や融資制度はこれまでもありましたが、なかなか周知されないこともあり、あまり使われない状況がずっと続いていました。3、4年前にまつえ産業支援センターをつくり「ものづくりアクションプラン」をつくることにしましたが、その際に大塚委員がおっしゃったような今までの反省を踏まえて、各企業にどのようなことを支援してほしいかを全部聞いて回りました。その結果を積み上げた補助金をつくりましたが、これは非常に効果がありました。そういう経験を我々は持っていますので、いろいろな補助金をつくるときには、机の上で全てつくってしまい、年度末の実績で消えてしまうようなことが無いように、対象となる方々の意見を取り入れて、これからつくっていきたいと思います。

大塚委員

もう一つ、人材育成について要望です。「職員の力を最大限活用する」ということですが、半歩でも先の社会を予測しながら、企業に指導するくらいの能力を持つよう教育していただいて、企業を引っ張っていくくらいの能力を身に付けるような人材育成に取り組んでいただきたいと思います。

議長（山本会長）

ありがとうございます。

竹田委員、どうぞ。

竹田委員

今回は時間に余裕があるようですので、いつも思っていたもなかなか言えなかったことを発言させていただきます。また嫌なことを言い出したなと思われると思いますが、勇気をもって言います。

このような審議会等の委員になると「口座振替依頼書」を提出します。私はこの10年ほど行政の委員会に関わらせていただいているのですが、各課の審議会を更新する度に、松江市からは毎回出すように言われ、書式も違います。私は県の委員もいろいろやらせていただいているのですが、県は10年前に1度提出して以来、「変更が無ければ要りません。」と言われ、教育委員会だけが別だった記憶がありますけども、ほかの課でも出せと言われたことはありません。こういうことも事務事業の積み重ねで、審議会や委員会がたくさんあり、たくさんの委員がおられ、それも誰かの仕事になっていると思うと、「何とかありませんか。」と毎年受付の方に言って煩がられていますけども、そろそろ何とかしてもいいのではないかと思います。県でできるなら、市もできるのではと思います。

もう1点は、去年、市の方で大口町に行かせていただきました。その時に知ったことですが、松江市ではまだ旅費を実費ではなく何かの計算方法によって出していると聞きました。宿泊に実際にかかったお金ではなく、1泊いくらと決まっていると。昔は行政はどこもそうだったと思いますが、今は島根県でも実際にかかったお金で支出しています。松江市全体の出張を考えると、少しずつですが積み重ねれば大変な財政を守ることになるのではないかと思います。昔どおりのやり方をただ繰り返しているだけという業務がまだ眠っていると思います。勇気をもって発言しますので、どうぞ改善してください。よろしく願いします。

議長（山本会長）

ありがとうございました。竹田委員の言われた委員手当等の振込先は、マスターが1つあればいいのかなと私も思っています。それから旅費の精算については、実費精算がよいか定額精算がいいのか、これは仕事の量にもよってきますので、総務部の方でより効率的な方法を十分検討いただき、また、委員の負担にならない方法となるよう、ぜひよろしくお願いします。竹田委員、別に嫌なことではありませんよ。そういうことを言う機会ですから。

今日報告いただいた実施報告書はそれぞれ評価されていますが、この評価は自己評価ですか、それとも評価委員会のようなものがあるのですか。

事務局（行政改革推進課長）

最終的には市役所の行財政改革推進本部会議において、その結果を認めていただいています。

議長（山本会長）

いわゆる自己評価で、外部の委員によるものではないということですね。これはなかなか難しいと思いますね。KPI（重要業績評価指標）のように数値がはっきり出てくるような

ものはよいですが、先ほどから話題になっていた「市民との共創・協働」などは、なかなかどこまでいったらどうなのかと、一応目標はありますが、数を増やすだけでなく中身はどうかということもありますので、なかなか難しいです。こういったことについて、今日のように委員の皆様からいろいろな意見をいただければよいと思います。

それでは、予定していた時間になりましたので、特に無ければ以上で質疑応答を終わりたいと思います。ありがとうございました。

会議次第最後の「その他」でございますが、事務局から何かありますでしょうか。

事務局

大変事務的な話ですが、本日の会議録の確認について申し上げます。本日の会議録は市のホームページに公開することにしてあります。そのため、事務局で作成した会議録について、本日ご発言いただきました委員の皆様と山本会長に、内容をご確認いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

議長（山本会長）

この後、ご発言いただいた委員の皆様方にご覧いただき、内容的に齟齬が無いか確認いただいた上で、私が全体を見せていただき、最終的に会議録として確定したいと思います。よろしいでしょうか。

高尾委員

会議録は概要版ですか、詳細版ですか。

事務局

ご発言の内容についてはほぼそのまま思っていますが、要約させていただく部分も若干含めた会議録で作成しています。

議長（山本会長）

議事概要と逐語録と両方公開されるということですか。

事務局

はい、事務局からの説明などについては省略しますが、いただきましたご意見については…。

議長（山本会長）

発言を全てということですね。これまでもそうでしたね。委員の皆様、よろしいでしょうか。

それでは、委員の皆様のところには原稿がまいりますので、ご確認いただいた上でお返しいただきたいと思います。市のホームページには議事概要並びに各委員の発言が載るとい

うことで、ご了承ください。

そういたしますと、本日の議事は以上で終了となります。ご協力ありがとうございました。

進行を事務局へお返しします。

事務局

ありがとうございました。山本会長には、円滑な議事運営をいただき、誠にありがとうございました。また、委員の皆様におかれましても、長時間にわたりご審議いただき、貴重なご意見をいただきましたこと、感謝申し上げます。

以上をもちまして、第25回松江市行財政改革推進委員会を終了いたします。

< 議 了 >